

今月の題字



熊野第一小学校 6年 中井 穂乃華 さん



熊野第一小学校 2年 澤 優心 くん

【評】二体の宇宙人が卵から生まれた様子が、大胆な構図で描かれている。宇宙にいる様子が伝わるように、背景にもこだわり、最後まで丁寧に描き続けることができた。

熊野第一小学校 4年 久保田 唯 さん



【評】字の形、書き順がきちんと理解できていて、しっかりとした線で描かれている。名前のバランスも良くできている。

熊野の自然 (372)
ホタルガ
(マダラガ科)



頭が赤く、はねが黒くて、ホタルを思わせるので名前が付いたと言われます。昼間、林内の木陰などをひらひらと飛び、葉の上で休みます。前ばねは長さ25〜30mm。白く太い帯が目立ちます。黒い下ばねは見えません。触角は櫛歯状です。蛹から羽化した成虫が現れるのは年2回、6〜7月頃と9月頃です。日本中で普通に見られます。一日に多数見られることも多く、平成23年9月21日、ゆるぎ観音〜赤穂峠〜昭和池コースで最多75匹を記録しています。幼虫の食樹はサカキ科のヒサカキで、町内の山全域にたくさん生えています。幼虫は淡い黄色で、背に灰色の細い帯があり、それを黒の太い帯が囲んでいます。危険を察すると、体表から有毒の粘液を出します。シロシタホタルガは、下ばねの内側が白く、前ばねの白い帯はホタルガより内側にあります。成虫は年1回、6〜7月頃に現れます。幼虫は黒い地で、背面に大きな黄色の紋がびっしりと2列に並びます。町内では一度幼虫を見ているだけです。幼虫の食べるハイノキ科のタンナサワフタギなどが町内には稀なのです。マダラガ科は町内で他にウスバツバメガ、ミノウスバ、ヤホシホソマダラを見えています。「広島県昆虫誌」には12種記録があります。

【写真・文】
緑花文化士 富沢由美子



防災無線放送再生ダイヤル
082-820-5640
(放送終了後24時間自動消法)

筆の駅ミニギャラリー

●幼児から傘寿までの筆あそび展
(堀野書道教室)

時 9月3日(木)〜15日(火)

「誰にでも読める書」をテーマとした幼児から80歳の人までの作品を展示します。ぜひご来場ください。



「仲よしこよし」堀野真理子作

●仿古堂創業120年企画展Ⅱ
時 9月21日(月)〜10月10日(土)

棟方志功や上田桑鳩、金子鷗亭ら、仿古堂が創業から120年の間にご縁をいただいた書家14人の墨跡を展示します。

熊野町観光案内所「筆の駅」

熊野町出来庭10・6・24

問 85・1123 (いいふみ)

開 10時〜16時

(各展示の最終日は15時閉場)

休 水曜日・第3日曜日

※無料

※ギャラリーのご利用については、お問い合わせください。



「広報くまの」は再生紙と、認定を受けた環境にやさしい環境対応型インキを使用して印刷されています。



分かりやすく、読みやすく、間違えにくいユニバーサルデザイン書体を使用しています。

